

2025 年 3 月 28 日

アートラボ 2025 第 1 期 中ハシクシゲ展

長野県立美術館 本館 2 階の「アートラボ」は視覚以外の感覚も使った鑑賞が可能な「ラボラトリー（実験室）」となることを目指しています。

2025 年 4 月 19 日（土）－7 月 6 日（日） 長野県立美術館 本館 2 階 アートラボ



中ハシクシゲ《おしめの家族（介護犬）》

アートラボ 2025 年度の第 I 期展覧会では、中ハシクシゲを紹介します。

現代美術作家、彫刻家として活動する中ハシは、アイマスクをつけて視覚を遮断し、触覚だけで制作するという手法で、新しい触覚体験の可能性を探求しています。本展では、長野県が実施した「新美術館みんなのアートプロジェクト※」にて制作されたシリーズ「おしめの家族」から 3 点を展示します。

（2019 年依頼 2021 年作品完成）

※「みんなのアートプロジェクト」は、ふるさと納税の仕組みを活用し、新しい県立美術館の無料ゾーンに展示するオリジナル作品を新たに制作するプロジェクトとして長野県が実施。2021 年の本館・新築オープンにあわせて、〈触れる美術作品〉〈映像作品〉を制作した。

▶ 展示作品（予定）

《おしめの家族（介護犬）》2021 年

《おしめの家族（ハイハイ）》2021 年

《おしめの家族（おしめ観音）》2021 年



中ハシクシゲ《おしめの家族（ハイハイ）》撮影：金井真一

▶作家略歴

中ハシクシゲ NAKAHASHI Katsushige

1955年香川県生まれ。現代美術作家、彫刻家。京都市立芸術大学名誉教授。1980年代から日本の風土に寄り添った彫刻制作を志向し、剪定された松や力士、天皇像、写真を使った「ZERO Project」などに取り組んだのち、粘土による即興的なモデリングを始める。アイマスクを付けて視覚を遮断し、触覚だけで作品を制作するという実験的な手法により、触覚体験の可能性を探求している。



中ハシクシゲ（ポートレート）© 守屋友樹

▶みどころ

本展展示作品の“おしめの家族”とは、年老いた愛犬が着用するおしめと、新たに誕生した赤ちゃんが身に着けるおしめの両方を指しており、一方は死に向かい、一方は生に向かっていくという真逆ながらも同じ“おしめ”を身に着けた命を示唆するためのシリーズ名です。

中ハシは、アイマスクをつけ、あえて視覚を遮断して制作した「触覚彫刻」に挑戦するために、赤ちゃんや老犬に何度も触れ、その感触を手で見ながらモデリング（塑像）しました。

本展では、鑑賞者が目を閉じて作品に触れ、その感触からどんな作品かを想像する「手で見る」体験を通して、視覚と触覚の差をお楽しみいただくことができます。

【開催概要】

会 期：2025年4月19日（土）-7月6日（日）

会 場：長野県立美術館 本館2階 アートラボ

開館時間：9:00-17:00

観覧料：無料

休館日：毎週水曜日

主 催：長野県、長野県立美術館

※諸般の事情により、会期などに変更が生じる場合があります。
最新情報については美術館ホームページをご覧ください。



アートラボ 2023 第1期 中ハシクシゲ展 展示風景

■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室 〒380-0801 長野市箱清水 1-4-4（善光寺東隣）

TEL：026-232-0052 FAX：026-232-0050 E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp